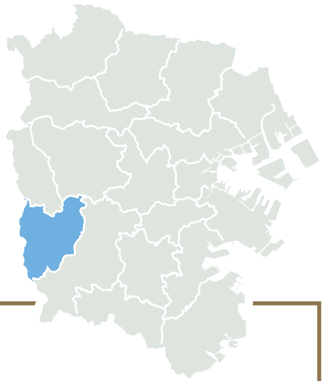
区のマーク

泉区



実施までの準備

泉区の高齢化は進み、今後在宅医療や看取りの増加が見込まれています。

本人（高齢者）が望む医療・ケアについて考える機会が持てるよう、医療・介護関係者が連携し切れ目なく支援する体制の構築が必要です。昨年度は、VRで看取りの当事者体験や横浜市ACP人材育成研修を活用し、ACP実践のための技術獲得や興味関心を持つきっかけづくりを目的とした研修を行いました。

今年度は、これまでの研修等で理解を進めてきたACPについて、ロールプレイを通して疑似的に体験することで、より実践的な理解を深めていくことを目的に研修を企画しました。

実施概要

研修タイトル **ACP研修 実践編** ～あなたならどう進める？？～

実施方法 会場での開催

日　時 令和5年11月30日（木）13時30分～16時

場　所 泉区医師会館

内　容
- 講義「ACPに関する理解」（湘南泉病院 池島 秀明氏）
- 講義「ACPの普及啓発・人材育成について」（旭区在宅医療相談室 洪 正順氏）
- 横浜市「人生会議」短編ドラマ視聴 働き盛り世代（壮年期）編～みどりの見える街で～
- ロールプレイ・発表
  「ドラマ終話から1年後、進行がんと転移が見つかり、予後が芳しくない」という設定のもと、今後の治療と生活についての話し合い

参加者 30人

内 訳
①歯科医師（2人）　②薬剤師（1人）　③栄養士（2人）　④行政職員（8人）
⑤ケアマネジャー（12人）　⑥地域包括支援センター職員（3人）
⑦その他の職種（在宅医療相談室 2人）

参加者の意見

【ACPのロールプレイを実施してみての気づきや感想】

- 本人が何を望んでいるのか。普段から感じ取っておくことが大切だと感じました。
- 元気なうちに自分の気持ちを伝えておくことが大事だと思いました。
- 残される家族のためのACPだと思います。
- もしも手帳があると聞きやすい。一方で、看取り期の在宅療養ケアマップやもしも手帳を渡すタイミングが難しいと感じました。

【研修に対する意見や感想】

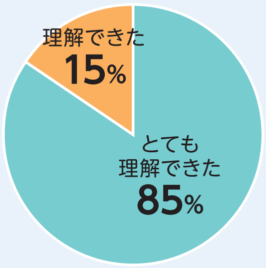
- ロールプレイを体験し、具体的にACPを行うことで、それぞれの立場を理解することができました。本人だけでなく、その時の家族の状況も背景に考えていくことの必要性も理解できました。
- これまで、ACPに触れる機会がなく、あまり理解していませんでしたが、目的や意向に沿った人生を送れる取り組みが必要ということが理解できました。
- 考えていくタイミングやプロセス等、ACPについての理解が深まりました。

研修の成果

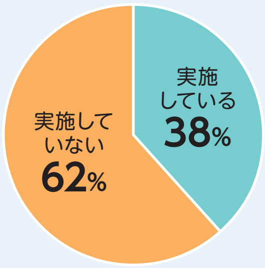
- 講義とロールプレイを組み合わせることで、知識として得た内容を直後に体感でき、より理解を深めることができました。また、ロールプレイで、それぞれの職種や役になりきり、様々な立場での意見を共有することで、ACPについて考えるきっかけを提供することができました。
- 研修に参加した事業所が、もしも手帳を活用したACPの普及啓発に、積極的に取り組み始めました。また、ロールプレイで様々なツールを活用したことにより、その普及啓発にもつながりました。

アンケート結果の一部 n=13

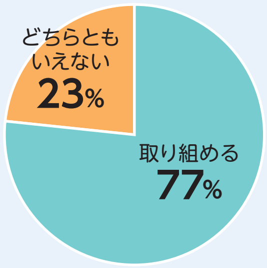
講義内容について



日頃の業務の中での ACP・人生会議の実施について



研修を通じて ACPに取り組めますか



今後の方向性と次年度に向けて

- 今年度は講義に加えロールプレイを行うことで、ACPについてより実践的な学びの機会を提供することができました。
- 更にACPの普及啓発、人材育成を進めていく必要性があるため、次年度も実践につながる研修を企画していきます。